

以下の通り表記に誤りがありました。ご迷惑をおかけしましたことを訂正してお詫び申し上げます。

該当刷ページ	該当箇所	【誤】	【正】
初版～5刷 p.50	図4 右の赤血球のイラスト	B	A
〃	図4 中央の赤血球のイラスト	A	B
初版～4刷 p.106	本文 1行目、3行目、 後ろから3行目	最高寿命	最大寿命
初版～4刷 p.119	後ろから5行目	このhCG の働きにより	このhCG が卵巣の黄体を刺激して プロゲステロン分泌を維持し
初版～4刷 p.186	6行目	女性ホルモン、アドレナリン、 ノルアドレナリン、コルチゾール	女性ホルモン、コルチゾール
初版 p.338	後ろから5行目～ p.339 の1行目	ヒトの心拍数を70拍／分とすると、1日では10万8000拍となる。このペースで計算すると、心臓時計における15億回の心拍は、約48年の生存期間に相当する。この値は、現在の平均寿命(84歳)や最大寿命(120年)とは異なるが、昭和22年の平均寿命(50歳)とほぼ一致する。医療技術の進歩がなければ、48歳が本来の寿命とも考えられるだろう。そうなると、ヒトは本来の寿命を約2倍に延ばしているということになる。50歳を超えると現れる老化の徴候(老眼、脱毛、閉経など)は、心臓時計が示す本来の寿命に近づいているサインかもしれない。	ヒトの心拍数を1分間に70回とすると1日では10万800回になる。このテンポで計算すると、心臓時計における15億回の拍動は約40年の生存期間に相当する。つまり、40歳前後がヒトの本来の寿命なのかもしれない。この数字は、兼好法師が『徒然草』で「40歳手前で死ぬことを目安とすべし」と述べた年齢にも一致する(2-1「老化・死」参照)。現代の平均寿命は84歳で、この寿命を2倍に伸ばしており、医療を含めた文明の力の成果と言える。40歳を過ぎて現れる老化の徴候は、心臓時計が示す「本来の寿命を超えた」というサインなのかもしれない。